

「火災発生、集合せよ」

団員メール連絡網

江津の嘉久志消防分団導入

災害時の出動を迅速化するため、江津市消防団嘉久志分団（山藤幸男分団長、二十三人）が、連絡網に携帯電話のメールシステムを取り入れ、習熟を図っている。電話連絡網より「手間もかからず、確実」と団員たちに好評だ。



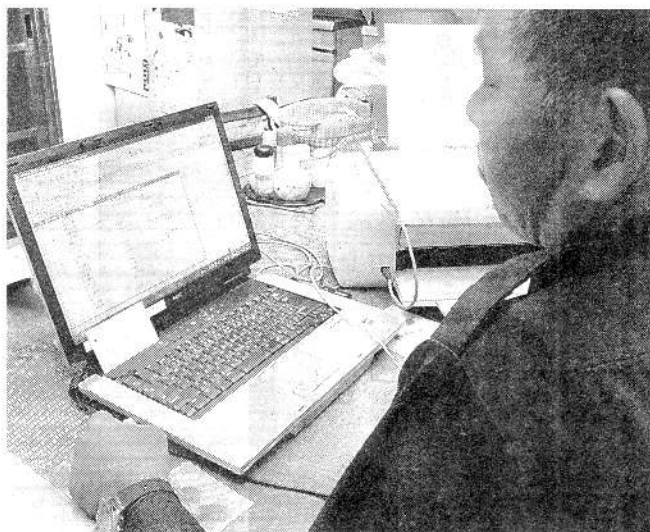
松江市内のソフトウェア開発会社、システムデザイン・アクティ（石本光史社長）が開発した情報伝達システムを活用。連絡担当者のパソコンから、団員にメールを一括送信でき、送信後は担当者のパソコンで、各団員がメールを確認したかどうかや、コメントが確認できる仕組み。分団長から副分団長、さらに各団員へと枝分かれする従来の電話連絡網は、話し中の場合などあっても、全員に連

一括送信で迅速化

絡が行き渡るまで三十分から四十分程度かかり、短縮化が課題となっていた。

同分団は同社と契約を結ん

メール連絡網の連絡で分団納庫に集合し、対応状況を確認する江津市消防団嘉久志分団員たち



各分団員にメール送信後、パソコンで受信状況やコメントを確認する沖田晃宣副分団長

だ後、メール連絡網の対応訓練を重ね、九月初旬に行った訓練でも沖田晃宣副分団長（52）が自宅のパソコンからは速く出動することが大切。「火災発生。出動の可否を入力し納庫に集合せよ」とのメールを送信。登録済みの団員十八人のうち、十一人が十分以内には返信するなど、以前の訓練より、対応が速くなった。山藤分団長（59）は「災害時で、メール連絡網は役に立つ。年齢の高い団員もいるが習熟度を高め、万一の場合に生かしたい」と話した。